

# プロジェクト

バイオマス

第30回  
毎月第1・3日掲載

## アースクリエティブ

アースクリエティブは、山口県宇部市に日量24・1トンの処理能力を持つ食品リサイクルセンター(以下エコフイード)を保有し、飼料化事業を展開している。現在、県内のスーパー・コンビニから賞味期限切れ商品、学校・レストラン・食品工場等から食品残さを計日量10トほど受け入れ、「ぎららミール」を製造。畜産農家に出荷して高い評価を受けている。同社の事業概要について中島浩常務取締役を話を聞いた。

まず、食品リサイクルを教えてください。



アースクリエティブ  
常務取締役  
中島 浩氏

ない時期に来ていました。このように、01年にも食品リサイクル法が施行され、われわれは食品の廃棄に奮闘。04年から調査・実証事業をスタートさせまし

た。当時は食リへの認知も低く、技術的にも壁の高い事業ではありましたが、「環境共済の減圧乾燥方式を採用。さらに製品成分の生リサイクル企業へ」と変わらなければ」という思い、「資源化を組み込むことで、高品質な飼料製造を実現

提供するだけでなく、

代表者 栗原和夫代表取締役社長  
設立 1993年  
資本金 4000万円  
所在地 山口県宇部市  
事業内容 浄化槽清掃および維持管理、廃棄物の収集運搬・処分業、食品残さの飼料化事業、廃プラ・油化リサイクル、BDF事業など

## エコフイードは品質・安全重視

### 次は地域ブランド畜産物確立へ

確保です。飼料化に当り、原料の栄養成分を壊さずに製造。また、廃食油のリサイクル事業も手掛けています。この事業では、原料として販売して

最後に、今後の目標を教えてください。

中島 当社のエコフイードは、豚・鳥用の飼料として販売していましたが、地域循環のブランド畜産物が確立でき

と、浄化槽の維持管理清掃業を中心として浄化槽の付帯工事、一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬を手掛けていました。しかし2000年に入る頃には、主力事業の浄化槽は減少傾向にあり、新規事業を模索しなければなら



「御社 加えて、食リの調査事業の特色・実証事業をスタートさせて以来、山口県畜産試験場と協働で飼育実験を行い、安全性は高品質化といった各種

の移行に弊害が出ている点です。山口県では、県が独自プロジェクトにて食リ推進を図ってはありますが、規制がないためか進捗は鈍い状況です。